



パウル・クレー 《リストから抹消》1933年
パウル・クレー・センター、ベルン、リヴィア・クレー寄贈
@Zentrum Paul Klee, Bern, Bildarchiv

柿沼万里江氏 (パウル・クレー・センター 研究員) 講演会

故郷への亡命 パウル・クレー晩年の創作とその芸術的／政治的意義

2021年11月22日 (月) 13:00-14:30 Zoom開催

スイスの首都ベルン出身、国籍上はドイツ人としてバウハウスで教鞭をとったパウル・クレーは、ナチによって「退廃芸術家」の烙印を押され、故郷スイスへの亡命を余儀なくされた。本講演では、アイロニカルな視点から社会的・政治的でアクチュアルな状況を克明に観察したクレーの晩年の創作とその芸術的／政治的な意義を解き明かす。

柿沼万里江さんプロフィール

上智大学で哲学、学習院大学とチューリヒ大学の大学院で美術史を専攻。チューリヒ大学に勤務後、2016年よりベルンのパウル・クレー・センター美術史専門研究員。専門はドイツ語圏の近現代美術史、特にパウル・クレー研究。近年は、芸術作品の由来、来歴の調査研究にも従事。パウル・クレーに関するドイツ語の著作多数。日本語での近著は、『日々はひとつの響き ヴァルザー＝クレー詩画集』：ローベルト・ヴァルザー詩／パウル・クレー画／柿沼万里江編／若林恵・松鶴功記訳、平凡社 2018年。

【主催】 学習院大学ドイツ語圏文化学科 【共催】 学習院大学ドイツ文学会

参加ご希望の方は11月18日 (木) までに学習院大学ドイツ語圏文化学科事務室(d-office@de-gakushuin.jp)宛に参加希望者氏名を明記の上、お申し込みください。11月19日 (金) にZoom情報を差し上げます。なお、ドイツ語圏文化学科所属の皆様にはG-PportでZoom情報をお知らせしますので、別途申し込みは必要ありません。